

【授業科目】 母子支援看護学演習Ⅱ(小児看護学支援論)(小児科目) Advanced Seminar of Child and Mother Health Nursing II

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
別所 史子、二村 良子、日比 千恵、増田 由美	1年次後期	選択	1	30	演習	巻末掲載
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	<p>子どもをとりまく社会全般、保健・医療・福祉・教育の現況を概観し、子どもと家族のQOL向上に寄与する看護の役割を文献にもとづき探求する。</p> <p>病気や障害をもつ子どもと家族に必要な看護における基本的な考え方や重要な概念を学修し、子どもらしい生活、家族らしい生活を支えるための看護援助方法を文献にもとづき探求する。</p> <p>子どもと家族の発達過程と発達課題を概観し、ライフステージ各期に応じた健康課題や親子の関係性の変化への適切な看護援助に必要な基礎的能力を養う。</p> <p>母子関係や子育て、養育不全に関する基礎的な知識と支援について学び、現代社会における子ども虐待の実態や背景、その予防及び対応システム、制度を理解し、子ども虐待防止へ向けて母親や家族に行う適切な支援方法を探究する。授業は実務家教員(別所、二村、日比、増田)が進める。</p> <p>課題に対するフィードバック方法/課題を発表しグループで検討し、教員から内容に対し指導を行う。</p>					
授業の位置づけ	本大学院のディプロマ・ポリシー①、③の達成に寄与している。					
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護領域における緩和ケアの定義、対象の特性と必要な看護援助について説明できる。 2. 病気や障害をもつ子どもと家族のライフサイクルの特性とソーシャルサポート、支援の方策について説明できる。 3. 子ども虐待や子育て不安の実態や背景、対応、支援、予防について説明できる。 4. 子育てをめぐる諸課題についてその実態と背景を理解し、子ども虐待予防の観点から適切な母親、家族支援について考えることができる。 					
時間外学習に必要な内容・時間	<p>テーマに関する資料の講読、研究論文の検索、文献検討を行い、プレゼンテーションの資料を作成する。授業の振り返り、次回授業の準備に各回4時間の学習を要する。</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合:予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合:予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合:予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>					
授業計画	<p><病気をもつ子どもと親への地域における支援></p> <p>第1回 病気や障害をもつ子どもと家族の状況と課題(保健・医療・福祉・教育において)</p> <p>第2回 病気や障害をもつ子どもと家族への支援(1):小児緩和ケアと小児看護</p> <p>第3回 病気や障害をもつ子どもと家族への支援(2):子どもの症状マネジメント</p> <p>第4回 病気や障害をもつ子どもと家族への支援(3):小児緩和ケアにおける倫理的判断</p> <p>第5回~6回 ささまざまな場面での小児緩和ケア(事例検討、プレゼンテーション)</p> <p>第7回 成育医療等の現状と課題</p> <p>第8回 移行期医療(トランジション)と移行支援(1):小児期発症疾患の医療体制、現状と課題</p> <p>第9回 移行期医療(トランジション)と移行支援(2):成人期医療への移行に向けた患者教育</p> <p>第10回 適切な時期の移行が必要な小児慢性特定疾患患児と家族への支援(事例検討、プレゼンテーション)</p> <p><子ども虐待></p> <p>第11回 子ども虐待に関する諸理論:生物学的理論、愛着理論、精神分析理論、学習理論等</p> <p>第12回 子ども虐待の実態と子ども虐待予防システム</p> <p>第13回 虐待への対応と予防方法</p> <p>第14回 養育不全およびその懸念のある母親への支援(事例検討)</p> <p>第15回 まとめ:母子支援看護学分野における対象支援の課題を明確にする</p>					別所 二村 日比 増田
評価方法 評価基準	授業参加態度25%、プレゼンテーション25%、レポート50%とし、総合的に評価する。					
教科書	特になし	参考書等	授業のなかで適宜紹介する。			